



夢追人VI

かとう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第34号(R4. 11. 14)

宗像区中学生スピーチコンテストで 9年生クレシーニ・アビ・グレイスさんが優秀賞受賞!



11月5日(土)福津市のカメラホールで、第13回宗像区中学生英語スピーチコンテストが開催されました。本校代表として、8年生古賀映斗さん、高津千佳子さん、9年生甲斐田心結さん、クレシーニ・アビ・グレイスさんが出場しました。宗像区の中学校から28名のエントリーがある中で、クレシーニさんが見事優秀賞に輝きました。クレシーニさんは、12月3日(土)に開催される筑前地区(兼福岡県)中学生英語スピーチ交流会に宗像区代表として出場します。引き続き応援しましょう。

地域清掃で地域の環境美化に貢献

11月11日(金)定期考査が終了後、全校生徒による地域清掃活動を行いました。クラスごとに校区内を分担して、ゴミ拾いや落ち葉の回収などに取り組みました。8年生は、KJCとして校内の掲示物作成など校内美化も行いました。開始式では、環境委員長から「日頃登下校で見守って下さっている地域の方にご恩返しをしましょう。」という言葉がありました。これを機会に、地域の環境を見つめたり地域の発展に貢献するためにはどうすればよいのかを考えたりしていきましょう。



宗像市中学校生徒会役員交流会第3回宗像市中学生会議 に本校生徒会長・副会長が出席し、本校の取組を発表



11月11日(金)午後メイトム宗像にて、宗像市内にある7校の中学校の生徒会役員が一堂に会し、各校の生徒会活動の取組を交流し、宗像市の街づくりについて意見を交換する会議がありました。

本校の代表として、生徒会長の荒川巧成さん、副会長の山口敦也さん、甲斐田心結さんが出席しました。3人は、本校の生徒会の取組のうち、地域に向けて取り組んでいることについて立派に発表をしました。クリーンアップ作戦やチラシ配りのボランティア・学園運営協議会での地域の方との交流などについて目的と取組内容について報告しました。この会議は、来年度本校が事務局校となり会の運営を行います。

「運命」は決まっているのか、決まっていないのか？ ～ 中国古典『陰鷲録（いんしつろく）』の話 ～

人の運命は決まっているのか、決まっていないのか、古今東西様々に論じられてきました。みなさんはどう考えますか。今回紹介する話は、中国の明の時代に書かれた『陰鷲録（いんしつろく）』という本の話です。作者の袁了凡（えんりょうぼん）の自分の経験を書いたものです。

袁さんは少年時代、早くに父を失い、母の手ひとつで成長しました。親類に医者が多く、彼も医者を目指し医学の勉強に励んでいました。

そんなある日、不思議な老人が袁少年の前にあらわれ、「お前は役人として成功する人相を備えている」と予言します。そして、何歳で科挙（中国の役人登用試験）の試験に何番目の成績で合格し、何歳でこれだけの給料を手にするようになり、何歳で地方長官に選ばれる、とたたみかけます。「53歳の8月14日に自分の家の座敷で死ぬ。」老人はそこまで言い切りました。

袁少年はショックを受け、同時に感激しました。そこで、方向を転換し、役人を目指し科挙の試験勉強を始めました。

それからの展開は老人の占い通りに進みました。老人が予言した年令に予言通りの成績で科挙に合格し、その後も老人の言ったとおりになっていました。

以来袁さんは、人間の運命というものとはちゃんと決まっていて、人間にはどうすることもできないものなのだ、と思い定めるようになりました。すると、ああしたい、こうしたいという欲がすっかりなくなっていました。

あるとき、袁さんは仕事で南京付近のお寺に泊まりました。その寺の雲谷という和尚さんがつくづくと彼を見て聞きました。「あなたはお年ににあわずに立派です。どういう修行をしてそこまでの風格になられたのか。」

「いや、特別の修行などしていません。実は少年のときに占い師に人相をみてもらったことがあって、いろいろと予言されました。それが一つもまちがっていないのです。それからはよけいな悩みやあがきは一切やめました。それだけのことです。」

すると、雲谷和尚は大笑いして言い捨てました。

「なんだ、そういうことか。それならおまえは誠にくだらん人間だ。」

袁さんは驚いて、どういうことかと聞くと、雲谷和尚の答えはこうでした。

「人間の運命がはじめから定まっているなら、シャカや孔子がどうして苦勞されたのか。偉大な人がたいへん苦勞をして学問修行をし勉強したのは、それによって人間を創ることができるからだ。」

確かに、命（めい）というものは存在する。だが、人間はその命（めい）を知り、命を立てることができる。これは他の動物には不可能な、人間だけにできることなのだ。どうすればどうなるかを研究し、それによって自らを創造することができる。宿命や運命を立命に転換していくことができる。良いことを思い、良いことを実行すれば、運命はよい方に変わっていく。人間が万物の霊長たるゆえんは実にそこにある。運命は自分で切り開くものだ。」

袁さんはがくぜんとし目が覚めました。彼は奮起して和尚から教えられたことで考え直しました。するとどうでしょう、あの老人の予言がことごとく外れだしました。53歳で死ぬはずが74歳まで生きました。

ちなみに、この難しい書物名の陰鷲（いんしつ）の意味は、「自然が支配する法則を人間の探究によって得た法則によって変化させていく」というものです。人間は、学問・勉強をしないと、動物的・機械的な存在になってしまう。よく学問・勉強することで自分で自分の運命を創ることができるということを袁了凡さんは自らの体験をもとにこの本で後世に伝えようとしていました。

